

四半期報告書

(第131期第2四半期)

自 2021年7月1日

至 2021年9月30日

株式会社 **ニツキ**

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移 1
- 2 事業の内容 1

第2 事業の状況

- 1 事業等のリスク 2
- 2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 2
- 3 経営上の重要な契約等 3

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

- (1) 株式の総数等 4
- (2) 新株予約権等の状況 4
- (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 4
- (4) 発行済株式総数、資本金等の推移 4
- (5) 大株主の状況 5
- (6) 議決権の状況 6

2 役員の状況 6

第4 経理の状況 7

1 四半期連結財務諸表

- (1) 四半期連結貸借対照表 8
- (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 10
 - 四半期連結損益計算書 10
 - 四半期連結包括利益計算書 11
- (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 12

2 その他 16

第二部 提出会社の保証会社等の情報 17

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2021年11月12日
【四半期会計期間】	第131期第2四半期（自 2021年7月1日 至 2021年9月30日）
【会社名】	株式会社ニッキ
【英訳名】	NIKKI CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 和田 孝
【本店の所在の場所】	神奈川県厚木市上依知3029番地
【電話番号】	046（285）0228
【事務連絡者氏名】	常務取締役 田中 宣夫
【最寄りの連絡場所】	神奈川県厚木市上依知3029番地
【電話番号】	046（285）0228
【事務連絡者氏名】	常務取締役 田中 宣夫
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第130期 第2四半期連結 累計期間	第131期 第2四半期連結 累計期間	第130期
会計期間	自2020年 4月1日 至2020年 9月30日	自2021年 4月1日 至2021年 9月30日	自2020年 4月1日 至2021年 3月31日
売上高 (千円)	2,814,947	4,030,641	5,895,873
経常利益又は経常損失 (△) (千円)	△140,468	644,886	350,419
親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純利益又は親会社株主に帰属する四半 期純損失 (△) (千円)	△172,498	391,342	256,977
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	73,356	361,048	826,578
純資産額 (千円)	7,462,031	8,496,058	8,215,253
総資産額 (千円)	12,998,829	16,216,389	13,347,813
1株当たり四半期 (当期) 純利益金額 又は四半期純損失金額 (△) (円)	△90.94	205.22	135.27
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当 期) 純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	57.2	52.3	61.4
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	72,517	447,682	496,398
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△459,764	△562,108	△650,144
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△171,775	△111,815	△180,067
現金及び現金同等物の四半期末 (期 末) 残高 (千円)	3,482,794	3,375,659	3,715,523

回次	第130期 第2四半期連結 会計期間	第131期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自2020年 7月1日 至2020年 9月30日	自2021年 7月1日 至2021年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額又は四半 期純損失金額 (△) (円)	△65.30	86.37

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結累計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を摘要した後の指標等となっております。
3. 第130期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。第130期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。第131期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。この結果、当第2四半期連結累計期間の連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

収益認識会計基準等の適用が財政状態及び経営成績に与える影響の詳細については、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（会計方針の変更）及び（セグメント情報等） セグメント情報 2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

（1）財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、設備投資や生産等に持ち直しの動きが見られたものの、新型コロナウイルス感染症の拡大長期化の影響もあり、依然として予断を許さない状況が続いております。

世界経済は、ワクチン接種の進展に伴い一部地域では経済の回復が期待される一方で、感染再拡大の懸念に加え、米中対立の長期化、半導体の供給不足、原材料価格の高騰、物流の停滞・輸送費用の高騰、中国の電力不足問題等のリスク要因も並存しており、先行きは一段と不透明感を増しております。

このような状況のもと、当第2四半期連結累計期間の業績は、当社の主力市場の一つである北米市場の需要回復等により、連結売上高は40億3千万円（前年同期比43.2%増加）となりました。

損益につきましては、売上高の増加、採算性の改善効果や為替相場が想定よりも円安基調で推移したこと等により、営業利益は5億6千3百万円（前年同期は1億4千4百万円の営業損失）、経常利益は6億4千4百万円（前年同期は1億4千万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億9千1百万円（前年同期は1億7千2百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

ガス機器事業は、フォークリフト向け部品の販売増加や受託実験の増加等により、売上高は16億1千1百万円（同43.7%増加）、セグメント利益は2億6千万円（前年同期は2億4千4百万円の損失）となりました。

汎用機器事業は、主要マーケットである米国市場の需要回復・販売増加等により、売上高は18億1千8百万円（同49.1%増加）、セグメント利益は8千万円（前年同期は8千3百万円の損失）となりました。

自動車機器事業は、インド市場の販売回復やフォークリフト向けキャブレターの販売増加等により、売上高は3億2千5百万円（同65.3%増加）、セグメント利益は1千2百万円（前年同期は2千5百万円の損失）となりました。

不動産賃貸事業は、売上高は2億7千4百万円（同0.7%減少）、セグメント利益は2億9百万円（同0.4%増加）となりました。

資産、負債及び純資産の状況は次のとおりであります。

（資産の部）

当第2四半期連結会計期間末における総資産の残高は、162億1千6百万円と前連結会計年度末と比べて28億6千8百万円増加しました。主な増減項目は、建設仮勘定の増加（22億5千8百万円）、受取手形、売掛金及び契約資産の増加（4億1千2百万円）であります。

（負債の部）

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は、77億2千万円と前連結会計年度末と比べて25億8千7百万円増加しました。主な増減項目は、設備関係支払手形の増加（17億6千7百万円）、支払手形及び買掛金の増加（4億6百万円）であります。

（純資産の部）

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、84億9千6百万円と前連結会計年度末と比べて2億8千万円増加しました。主な増減項目は、利益剰余金の増加（2億8千2百万円）であります。

(2) キャッシュ・フローの分析

当第2四半期連結累計期間における、現金及び現金同等物の残高は、営業活動によるキャッシュ・フローの増加（4億4千7百万円）が、投資活動によるキャッシュ・フローの減少（5億6千2百万円）及び財務活動によるキャッシュ・フローの減少（1億1千1百万円）を下回り、また、現金及び現金同等物に係る換算差額の減少（1億1千3百万円）による調整を行った結果、現金及び現金同等物の残高は、33億7千5百万円（前第2四半期連結累計期間は34億8千2百万円）となり、前第2四半期連結累計期間と比べて1億7百万円減少しました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果増加した資金は4億4千7百万円となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益（5億8千3百万円）、仕入債務の増加（4億8千1百万円）、売上債権の増加（4億3千8百万円）、棚卸資産の増加（2億4千1百万円）によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果減少した資金は5億6千2百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出（5億6千1百万円）によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果減少した資金は1億1千1百万円となりました。これは主に配当金の支払額（1億4百万円）によるものであります。

(3) 財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当第2四半期連結累計期間において、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前連結会計年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、103,421千円であります。なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2021年11月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,000,000	2,000,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 100株
計	2,000,000	2,000,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2021年7月1日～ 2021年9月30日	—	2,000,000	—	500,000	—	26,902

(5) 【大株主の状況】

2021年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総 数に対する所 有株式数の割 合 (%)
いちごトラスト・パーティー イー・リミテッド	1 NORTH BRIDGE ROAD, 06-08 HIGH STREET CENTRE, SINGAPORE 179094 常任代理人 香港上海銀行東京支店	427	22.32
WESTERN GATE GROUP LTD	PORTCULLIS4FELLENSKELTONBLD3076SIRBVI 常任代理人 フィリップ証券株式会社	98	5.17
DEUTSCHE BANK AG, SINGAPORE A/C CLIENTS (TREATY)	ONE RAFFLES QUAY, 16TH FLOOR, SOUTH TOWER, SINGAPORE 048583 常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部	90	4.73
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A2BB UNITED KINGDOM 常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行	88	4.60
谷電機工業株式会社	東京都江東区森下3-16-7	80	4.20
株式会社横浜銀行	神奈川県横浜市西区みなとみらい3-1-1	80	4.18
光陽投資有限公司	台湾国高雄市三民區灣興街35号	80	4.18
株式会社富士精機製作所	長野県諏訪郡富士見町境5986-1	61	3.20
株式会社神奈川銀行	神奈川県横浜市中区長者町9-166	52	2.72
株式会社りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町2-2-1	50	2.61
計	—	1,107	57.92

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2021年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 87,000	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 1,910,000	19,100	—
単元未満株式	普通株式 3,000	—	—
発行済株式総数	2,000,000	—	—
総株主の議決権	—	19,100	—

(注) 「完全議決権株式 (その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が6百株 (議決権の数6個) 含まれております。

② 【自己株式等】

2021年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
株式会社ニッキ	神奈川県厚木市 上依知3029番地	87,000	—	87,000	4.35
計	—	87,000	—	87,000	4.35

(注) 自己株式は、2021年7月28日に実施した譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分により、10,300株減少しております。

2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員 の 異動はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,870,104	3,534,777
受取手形及び売掛金	860,557	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	1,273,523
電子記録債権	287,917	361,582
商品及び製品	900,743	983,054
仕掛品	1,050,617	1,278,424
原材料及び貯蔵品	66,030	79,422
その他	214,231	619,877
貸倒引当金	△7,972	△9,010
流動資産合計	7,242,231	8,121,652
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,376,542	2,336,329
機械装置及び運搬具（純額）	776,202	689,260
建設仮勘定	583,893	2,842,543
その他（純額）	582,246	567,442
有形固定資産合計	4,318,884	6,435,575
無形固定資産	44,144	43,827
投資その他の資産		
投資有価証券	1,707,879	1,579,468
その他	34,674	35,866
投資その他の資産合計	1,742,553	1,615,335
固定資産合計	6,105,582	8,094,737
資産合計	13,347,813	16,216,389
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	92,372	499,119
電子記録債務	335,830	398,980
短期借入金	2,300,000	2,400,000
未払法人税等	28,907	216,115
賞与引当金	144,012	155,028
設備関係支払手形	230,700	1,998,450
その他	286,381	561,748
流動負債合計	3,418,203	6,229,441
固定負債		
長期借入金	150,000	50,000
退職給付に係る負債	646,205	580,892
その他	918,151	859,996
固定負債合計	1,714,356	1,490,889
負債合計	5,132,559	7,720,331

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	500,000	500,000
資本剰余金	44,762	49,143
利益剰余金	6,936,372	7,218,771
自己株式	△229,815	△205,496
株主資本合計	7,251,319	7,562,418
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	921,662	832,171
為替換算調整勘定	△38,883	27,748
退職給付に係る調整累計額	59,052	52,063
その他の包括利益累計額合計	941,831	911,984
非支配株主持分	22,103	21,656
純資産合計	8,215,253	8,496,058
負債純資産合計	13,347,813	16,216,389

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	2,814,947	4,030,641
売上原価	2,297,741	2,798,349
売上総利益	517,205	1,232,292
販売費及び一般管理費	※ 661,309	※ 668,947
営業利益又は営業損失(△)	△144,103	563,344
営業外収益		
受取利息	7,786	5,169
受取配当金	27,698	35,998
為替差益	—	38,240
その他	13,923	16,946
営業外収益合計	49,407	96,355
営業外費用		
支払利息	15,339	14,813
為替差損	30,432	—
その他	0	0
営業外費用合計	45,772	14,813
経常利益又は経常損失(△)	△140,468	644,886
特別利益		
固定資産売却益	—	213
特別利益合計	—	213
特別損失		
固定資産除売却損	18	45,626
環境対策費	—	16,140
特別損失合計	18	61,766
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△140,487	583,333
法人税等	61,392	192,438
過年度法人税等	△17,981	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△183,898	390,895
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△11,400	△446
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△172,498	391,342

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△183,898	390,895
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	295,738	△89,490
為替換算調整勘定	△40,912	66,632
退職給付に係る調整額	2,428	△6,989
その他の包括利益合計	257,255	△29,847
四半期包括利益	73,356	361,048
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	85,898	361,495
非支配株主に係る四半期包括利益	△12,541	△446

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△140,487	583,333
減価償却費	258,001	225,600
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△680	1,066
賞与引当金の増減額(△は減少)	4,068	10,989
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△34,177	△75,263
受取利息及び受取配当金	△35,484	△41,168
支払利息	15,339	14,813
為替差損益(△は益)	517	16,310
固定資産除売却損益(△は益)	18	45,412
売上債権の増減額(△は増加)	153,413	△438,687
棚卸資産の増減額(△は増加)	61,967	△241,909
仕入債務の増減額(△は減少)	△209,511	481,395
その他	2,661	△146,324
小計	75,648	435,568
利息及び配当金の受取額	35,484	41,168
利息の支払額	△15,362	△14,746
法人税等の支払額	△23,252	△14,307
営業活動によるキャッシュ・フロー	72,517	447,682
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△100,513	△90,255
定期預金の払戻による収入	85,011	89,945
有形固定資産の取得による支出	△446,535	△561,795
有形固定資産の売却による収入	—	213
無形固定資産の取得による支出	—	△915
貸付けによる支出	△200	—
貸付金の回収による収入	283	—
その他	2,189	697
投資活動によるキャッシュ・フロー	△459,764	△562,108
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	100,000	—
長期借入金の返済による支出	△103,385	—
リース債務の返済による支出	△7,513	△7,169
配当金の支払額	△160,876	△104,646
財務活動によるキャッシュ・フロー	△171,775	△111,815
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4,569	△113,622
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△563,592	△339,864
現金及び現金同等物の期首残高	4,046,386	3,715,523
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 3,482,794	※ 3,375,659

【注記事項】

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用につきましては、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
支払運賃梱包費	36,838千円	60,496千円
従業員給料及び手当	215,421	186,251
減価償却費	18,921	14,350
賞与引当金繰入額	38,752	40,522
退職給付費用	13,844	4,133
譲渡制限付株式報酬費用	9,920	9,467
研究開発費	23,046	34,060

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
現金及び預金勘定	3,649,772千円	3,534,777千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△166,977	△159,118
現金及び現金同等物	3,482,794	3,375,659

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月29日 定時株主総会	普通株式	160,876	85	2020年3月31日	2020年6月30日	利益剰余金

- (2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月29日 定時株主総会	普通株式	104,646	55	2021年3月31日	2021年6月30日	利益剰余金

- (2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	ガス機器 事業	汎用機器 事業	自動車機 器事業	不動産賃 貸事業	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
売上高							
外部顧客への売上高	1,121,633	1,219,398	196,969	276,945	2,814,947	—	2,814,947
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,121,633	1,219,398	196,969	276,945	2,814,947	—	2,814,947
セグメント利益又は 損失(△)	△244,225	△83,305	△25,500	208,928	△144,103	—	△144,103

(注)セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益又は営業損失(△)と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

固定資産に係る重要な減損損失の認識、のれんの金額の重要な変動及び重要な負ののれん発生益の認識はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	ガス機器 事業	汎用機器 事業	自動車機 器事業	不動産賃 貸事業	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
売上高							
日本	1,133,106	31,389	226,598	—	1,391,094	—	1,391,094
米国	150,355	1,688,021	3,966	—	1,842,344	—	1,842,344
中国	48,345	79,260	502	—	128,108	—	128,108
韓国	78,188	17,708	827	—	96,723	—	96,723
その他	201,730	1,949	93,705	—	297,385	—	297,385
顧客との契約から生 じる収益	1,611,727	1,818,329	325,599	—	3,755,656	—	3,755,656
その他の収益	—	—	—	274,985	274,985	—	274,985
外部顧客への売上高	1,611,727	1,818,329	325,599	274,985	4,030,641	—	4,030,641
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,611,727	1,818,329	325,599	274,985	4,030,641	—	4,030,641
セグメント利益	260,421	80,252	12,914	209,755	563,344	—	563,344

(注)セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「会計方針の変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、報告セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に變更しております。

当該変更が報告セグメントの売上高及び利益又は損失に与える影響は軽微であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

固定資産に係る重要な減損損失の認識、のれんの金額の重要な変動及び重要な負ののれん発生益の認識はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期 純損失金額(△)	△90円94銭	205円22銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会 社株主に帰属する四半期純損失金額(△)(千 円)	△172,498	391,342
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利 益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金 額(△)(千円)	△172,498	391,342
普通株式の期中平均株式数(株)	1,896,831	1,906,956

(注) 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年11月12日

株式会社ニッキ

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 月本 洋一
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 遠藤 正人
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ニッキの2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ニッキ及び連結子会社の2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。